

社会科

自ら学ぶ意欲を育てる中学地理の課題レポート — 1年目の中間報告 —

佐藤俊樹

【抄録】 「知識・理解」に片寄りがちな学習のあり方を変え、もっと生徒の「関心・意欲」を評価してやれる方法はないものか。授業中にノートを取り、そこから出題される考査のために取り組むことも学習ではあるが、自分でテーマを設定し、それをとことん調べるの方がより質の高い学習ではないか。このような思いから、中学2年生の地理でレポート学習を今年度から始めた。これはその中間報告である。

【キーワード】 関心・意欲、資料活用、自ら学ぶ、狭く深く

1. はじめに

1989（平成元）年に改訂された中学校学習指導要領により、世界地理の扱いに大きな変化がみられた。特に、世界の諸地域を網羅的に取り上げるのではなく、教科書に掲載されている地域または国のうちから三つ程度を選んで取り上げるという精選化の方向に向かったのは大変革で、現在でもその是非をめぐる議論が続いているところである。

いずれにせよ、評価の観点で従来が一番手にあげられていた「知識・理解」が最後の4番目に落ちてしまったのに対し、かわって「関心・意欲・態度」がトップに位置づけられたことからわかるように、知識中心の地理から、個性を生かし、自己教育力を養う地理への変化が期待されていることに異論はない。

授業で取り上げられる地域や内容には限りがあるのならば、生徒の自己性にまかせてレポート学習を課してみれば、授業で教師の話を聴くよりもずっと深く学べるのではないか。また、そうすることが課題解決能力や自己教育力の啓発にも貢献するのではないか。このような思いでレポート提出を試みることにした。

2. 1年生時での課題レポート

この報告で対象にしている生徒は、1996（平成8）年度入学生であり、2年生でのレポート提出に本題があるのだが、1年生の冬休みに一度試したことがあった。

この年、私が世界地理の授業で取り上げた地域と国は、アメリカ合衆国・旧ソ連・EU諸国・中国の4つであった。指導要領のいう「三つ程度」の範疇に

は入れていただけたと思うが、生徒の中には“どうして教科書に載っているのにアフリカをやらないのか”とか、“行ったことのある東南アジアを授業で取り上げて欲しかった”という意見もかなり多く、このような積極的な生徒の要望にも応える方法として、レポート提出を思いついた。

冬休みの宿題として、問題演習は一切課さず、授業で取り上げた上記の4つの国と地域以外から一カ国を選び、その国に関して自由にレポートするを行った。外国に関するレポートであるため、自分で撮った写真や収集した資料は、渡航経験のある一部の生徒を除いては使えず、ほとんどが文献調査になってしまう。そのため、どうしても書物の丸写しが多くなってしまふのは予想できたことだし、実際に提出されたレポートを見ても、明らかに中学生では使われないような言い回しで書いている者も相当数いて、指導要領の「目標」にうたわれている「様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的に考察し公正に判断する能力と態度を育てる」にそぐわない気もした。しかし、新聞記事の切り抜き、旅行社からもらってきたパンフレット、実際に使用されている紙幣や貨幣、などを添付し、自分でイラストをかいたり、コメントを加えるなどして、読んでいるこちらが感心するような内容の者も、女子生徒を中心に2～3割いた。“授業を聴いたり、問題演習をするよりも、自分から調べるの方が好きな生徒もかなりいる。この子たちの意欲にも報いやることも必要だ。”という思いから、2年生時にもレポート提出を続けてみる決心をした。

3. 総合人間科との関係

本紀要の前半にも掲載されているとおり、名大附

属では文部省の研究開発指定を受けて、「総合人間科」に取り組んでいる。しかし、この報告の対象生徒たちは「総合人間科」の授業を受け始めてまだ2年目になったばかりである。そのため、地理のレポートの取り組みの姿勢に総合人間科が影響を及ぼしていると断定するのは、論を急ぎすぎるのもであると思う。ただ、彼らも中学1年生時には、「人から学ぶ」という大テーマのもとで、自分の興味のある職業に従事する人を訪問し、仕事内容やその職業に就くために必要な経歴などを聞くという野外実習を行った。相手に失礼のないように、下調べをかなり入念に行っている者もいた。この時の経験が生かされていないことはあるまい。

今年度中学2年生になった彼らは、「生命と環境」というテーマのもとで総合人間科の個人研究を進めている。地理のレポートと同時進行であるため、生徒の負担は決して軽いものではないが、本報告執筆中の7月段階では「総合人間科」と「地理レポート」の双方が消化不良である生徒は見かけられない。年度が終了する時期になれば、「総合人間科」に取り組んだことが、地理のレポートへの「関心・意欲」にどの程度関わりがあったかがわかるかもしれない。またの機会に報告したい。

4. 今年度の地理レポートの取り組み

中学2年生で行う地理の内容は、ほとんどが「日本地理」である。授業では日本の諸地域に関する学習を進めるその裏で、担当する海外の国を1つ決め、その国に関するレポートを年間に6回課すことにした。提出時期は

第1回	5月31日	締め切り
第2回	7月11日	〃
第3回	9月9日	〃
第4回	11月1日	〃
第5回	12月19日	〃
第6回	1月23日	〃

であり、本報告は第2回の締め切りが終わった段階で執筆している。

担当国は希望アンケートをとり、同一国は3人までとした。4人以上が希望した国は、アメリカ合衆国(10人)、フランス(6人)、ドイツ(4人)、オランダ(4人)、カナダ(4人)、オーストラリア(4人)で、全部が先進資本主義国であった。これらの国を第1希望にした生徒の数は、希望者の少ない第2・第3希望国にまわってもらうことで80名全員の担当国が決まった。担当国の内訳は、右の表のとおりである。

3名	中国 韓国(北朝鮮) インド ドイツ フランス イギリス オランダ アメリカ合衆国 オーストラリア
2名	ヴェトナム カンボジア モンゴル ホンコン トルコ ロシア イタリア スイス スペイン オーストリア エジプト カナダ ブラジル コロンビア ニュージーランド
1名	フィリピン タイ インドネシア パプアニューギニア パキスタン イスラエル レバノン スウェーデン デンマーク ギリシア アイルランド ポルトガル ブルガリア 南アフリカ 共和国 アフリカ大陸の国々 メキシコ ニカラグア エルサルバドル キューバ ベネズエラ ペルー ボリビア 南極大陸

上記の国一覧の中から、どなたでも気のつく点をいくつか指摘しておく。「韓国(北朝鮮)」というのは、「どうしても朝鮮半島全体の情勢をレポートしたい」という要望を出してきた生徒がいたため、それに応えたものである。「ホンコン」や「南極大陸」は独立国ではないが、十分調べることがらが豊富にあると判断して認めた。「アフリカ大陸の国々」には資料が少ない国が多く、同一国で6回のレポートを書くのは困難と判断し、他に調べる者のいる南アフリカ共和国とエジプト以外の国の中から選んでよいこととした。

担当国が決まれば、次は毎回のレポートのテーマである。漠然と6回も1つの国について調べるのではなく、毎回1つのテーマに焦点を当て、深く掘り下げてレポートさせることとした。広く浅くではなく、狭く深くである。その結果、なかなかユニークなテーマが第1回から登場した。例をあげてみる。

- ・日系人—フジモリ大統領を通して— (ペルー)
- ・赤毛のアン島の島、プリンスエドワード島について (カナダ)
- ・わが家にホームステイに来た学生にきく (レバノン)
- ・ベトナム戦争で使われた兵器 (ヴェトナム)
- ・オーストリアのスキーリゾート (オーストリア)
- ・VINO—イタリアワインについて— (イタリア)
- ・深刻化する北朝鮮の食糧危機 (朝鮮半島)
- ・「ラ=クカラーチャ」について (メキシコ)

しかし、大多数の生徒は、自然・気候・産業・観光といったありふれたテーマ設定をしてきた。しかも、

その内容は一冊の書物の丸写しが多く、自ら学ぶ姿勢を育てるものとはかなりかけ離れてしまった。そのため、第1回レポートを生徒に返却するときに、次回は複数の書物にあたること、自分のことばでまとめること、必ず最後に感想を述べることなどを伝えた。これが効いたのか、第2回では新聞記事の切り抜きを貼り付け、書物に頼らないレポートを書く者が増加した。また、コンピュータ好きな生徒の中には、スキャナで写真を取り込んだり、イラストの描けるアプリケーションを使って、見て美しいレポートを作り上げる者も現れた。

この研究の最後に生徒の実際のレポート例を紹介してあるので、見ていただきたい。

5. 評価

定期考査で生徒に問うのは、「知識・理解」である。いっぽうレポート学習には、「関心」をもってテーマを定め、「意欲」的に「資料活用」を行い、自分の頭で「思考・判断」し、見て美しく読んで楽しい「技能表現」を心がけることで作品を完成し、「知識・理解」が深まるというように、「四つの観点」がいずれも盛り込まれている。そのため、定期考査と同等に扱っても差しさわりないとも考えられる。しかし、今年度1学期においてそれは見送った。私自身にレポートの評価をした経験が乏しく、客観的に正しい評価ができるものか自信がなかったからである。

評価のしかたは、レポートの内容によりA、B、C、の3段階に分け、それぞれに50点、40点、30点を与えた。提出期限を守れなかった者については、遅れの程度に応じて減点をした。1学期の評定に関するレポートは第1回だけであり、最高50点をレポート点とした。中間と期末考査の地理の点数をそれぞれ75点満点に換算し、レポート点と合わせて地理は200点満点とした。これに中間100点、期末100点、合計200点満点の歴史の点数を加え、400点満点で社会科の評定

をつけた。地理レポートが評定に占める割合は12.5%ということになる。2学期には第2～4の3回のレポートが評定にかかわることになるため、1学期よりもウェイトが増す。定期考査は点数が低くても意欲的にレポートに取り組んでいる者にとっては福音になるであろうし、反対の者には不利になるであろう。学年が終わった段階で、評価については考察を試みたい。

6. おわりに

7月の終業式前の1週間、生徒と保護者との三者面談を行った。その中でかなりの保護者が、「うちの子は家庭ではほとんど勉強してないのに、地理レポートだけは張り切ってやっている。」とおっしゃっていた。クラス担任へのお世辞が少し入っているかもしれないし、遅れると減点されるのがかなわないからとも考えられるが、調べることでいろんなことがわかるということに楽しさを感じている生徒もいる。

締め切りが近くなると図書館が大繁盛になる。そんなときに顔を出すと、たちまち質問攻めに合う。中学生には内容的に難解な書物を参考にしているからだろうが、何とか理解しようとして救いの手を求めてくる姿は何とも微笑ましい。もっとも、締め切り間際だけでなく、恒常的に図書館が繁盛してくれともっとうれしいのだが。とにかく、6回のレポート提出が終了し、年度が終わる頃にどれだけ生徒の「自ら学ぶ」姿勢に進歩が見られているか、楽しみである。

しかし、レポートも回を重ねるごとに問題点も見えてくる。たとえば、資料の乏しい発展途上国を担当することになった生徒の中には、「調べるものがない」と音をあげはじめた者もいる。評価の基準が曖昧であることに疑問が生じているのも事実である。より洗練されたレポート学習をさせるには、まだまだ時間と経験が必要なようである。

土曜王国レポート

No. 1
Date

オランダ

今回は本物のオランダでは行く
に困難(?)のオランダ
のオランダのオランダ



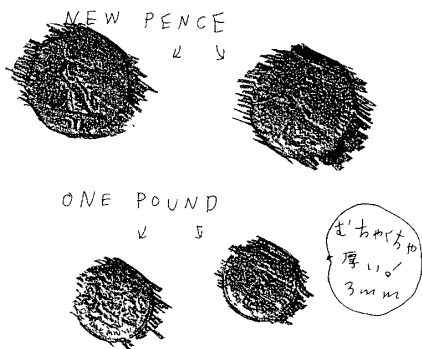
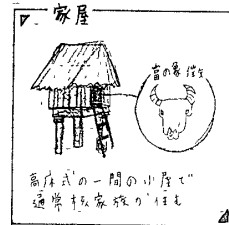
KAORI'S Diary

3月21日(金)

今日は家族といっしょに長崎のハウステンボスへ
行きました。
知理園のこのオランダ村に「行ったこと」がありました。
あまり覚えていないけれど
「オランダ村」にはいろいろな「オランダ」がありました。
今回も同じです。
「オランダ村」にはいろいろな「オランダ」がありました。
また外国のお物事もたくさんありました。
「オランダ村」にはいろいろな「オランダ」がありました。

イロガオ族の生活

植民地政府の支配が及ばないまま残されたため、文化
社会の生活習慣はほとんど昔ながらの姿を今も
形を留めている。



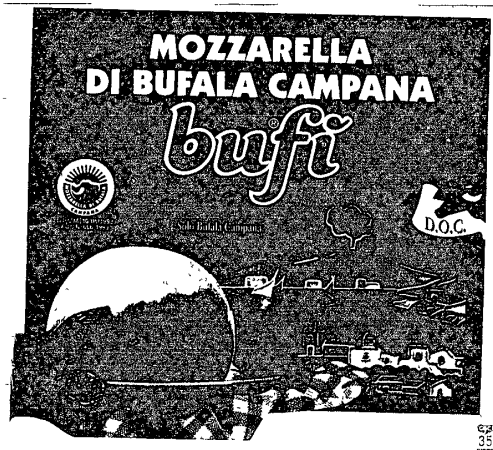
F.D.とは?
F.D.とは 教会の
Defender of the Faith
信仰の擁護者
のこと

どの通貨にも「イロガオ」の顔が描かれている。
(ポンドの通貨にも)

今、1ポンドは
だいたい100円くらい



No. DATE



夏はこれがある。 暑出し：存って気がいれたら

Gorgonzola
ゴルゴンゾラ
イタリア産の青カスチーズの1つで、世界的
にも有名なチーズです。クレーゼル
製法により、この青カスが青く染まっ
ています。チーズの風味が濃厚で、
とろけるような口当たりが特徴です。
ぜひ一度お試しください。

8

Date No

フジモリ大統領への想い——ペルー—国民

ペルー国民の半数程(かそれ以上)の人が常にフジモリ大統領を支持している。

フジモリ大統領には、ワイロなどのうわさがまたくなく(どんな大統領にもあった)政治に対するまじめな態度とうけとめられる。厳しい改革を進めていっても、ペルーをよくなるためだろうと思う。

ペルー人賞状について 4月22日、リマの日本大使館前、報道陣に囲まれて記者会見するフジモリ。

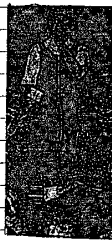
私か日系人について思うこと大統領 → 私には、ペルーの日系人の存在を、つい最近まで知らなかった。今回調べよかったです。

調べた中で特に面白かったのは、フジモリ大統領の名前の由来です。これが文化のちがいで、ものか、と思いました。あの彼は「大統領」を「大統領」とか、まちがいでいたことには気付いたこともありません。

現在、ペルーの中の、日系人の集まり合いは、1%未満である。

(ペルーは、人口1800万人、純粋なインディオ47%、インディオと白人の混血メスチソ40%、白人12%、その他1%)

資料「ペルー燃焼1989」 杉井和馬 (1991年11月30日第1版/刷発行)
「アニエスまでとれたペルー」 杉田和子 著 杉田和子 訳 (1991年4月23日第1刷発行)
写真 中日新聞から(大統領肖像も)



カボゴジア紛争

カンボジア問題

何が平和への道を閉ざしているのか。何が敵対、何が対立しているのか。

このことをわかりやすく理解するために1990年以降のカンボジアの現代史の概要をおいた。

1970年代以降の動きが、たぶん問題はこのまじ複雑だからなくて、みんなの思ふ。

① 1970年代以降の動きが、たぶん問題はこのまじ複雑だからなくて、みんなの思ふ。

② 北の親米政権は、このより先行するべきのあり。

③ 一方、ローノル親米政権は、国内の分断を助長する中で、米軍の支援を受け、アメリカ、南ベトナム政府軍のカンボジア侵襲を許した。

④ 北の親米政権は、このより先行するべきのあり。

⑤ 北の親米政権は、このより先行するべきのあり。

⑥ 北の親米政権は、このより先行するべきのあり。

⑦ 北の親米政権は、このより先行するべきのあり。

⑧ 北の親米政権は、このより先行するべきのあり。

⑨ 北の親米政権は、このより先行するべきのあり。

⑩ 北の親米政権は、このより先行するべきのあり。

今回「メキシコ革命」について、いろいろ知ることができた。NO.1で調べた。うっかりして、おぼろげな昔歌などで歌っているこの曲を、スペイン語にしようとする。歌詞になっちゃう。おぼろげな昔歌などで歌っているこの曲を、スペイン語にしようとする。歌詞になっちゃう。おぼろげな昔歌などで歌っているこの曲を、スペイン語にしようとする。歌詞になっちゃう。

次回、メキシコと日本のからわり



ほとはこの3つの航空会社を比べて

きつたことがあります。

① 韓国のエアラインは、運賃をのせていることが多々。

② 韓国のエアラインは、所有している機体が多々。

③ 北朝鮮のエアラインは、名古屋(田舎)便がない(すべてチャーター)。

ほとの見解では、一番大きな事に気がつきました。韓国のエアラインはアメリカ製(ボーイング)の機体が多く、北朝鮮のエアラインはロシア製(リポフ)の機体が多々と思えます。

これは、やはり北朝鮮戦争が関係していると思えます。なせなら北朝鮮戦争にはロシア(旧ソ連)が韓国にはアメリカが支援していたからです。そこから今の異なる機体になったと思えます。

まとめ

ほとは飛行機を見るのが好きです。その国の軍が売れているからです。それにいろいろ軍が分り、たわに。だから今回は飛行機について調べてみました。

